むさし同窓会

編集発行
武蔵野市境4-13-28
都立武蔵高校
同窓会編集委員会
電話　武蔵野51-4554
印刷所　三幸印刷社
武蔵野市境3-1-10

編集局よりおねがい

次号からはもっと広範囲の会員の方々から取材いたします。
特定の方に記事を依頼することも考えられますので、その際にはぜひ積極的に御協力下さい。

三十周年記念事業に

一千万予算

学校創立以来、今年で三十一年目ということである。同窓会もあと数年で満三十年を迎えることになる。八年前より設定じた特別事業積立金も、今年三月の決算ですでに七三六万円という多額に達した。三年後には一〇〇〇万の大台に乗ることは明らかである。そこで同窓会としては、三十周年記念ということもからませて、何が有意義な記念事業を行ないたいと考えている。今までにも幹事会等でいくつかの提案・意見など機会あるごとに話し合われてきたが、いずれも具体化するまでに達していない。

一〇〇〇万円というお金を、有意義に利用するために、二～三年がかりで、できるだけ多数の会員の方々から意見をお聞きし、煮つめて行きたいと考えている。

記念事業の推進方針としては、今までの母校に従属した運営体質から脱皮して、独立した一個の団体として積極的に取り組むことを強調したものにしたい。

八年前の一〇〇〇万円の経済的な価値と、現在のものとではかなり変って来ていると思う。有効に利用したいものである。

参考のために今まで提出された案を連記してみる。

一、大菩薩のヒュッテを改造し、同窓会で管理運営する。
・改造することには全く問題がないけれど、運営権を学校から同窓会に移行する件は二・三大きな問題点がある。特に同ヒュッテが国有地にあり、学校の公的財産として認められている点が、同ヒュッテを同窓会の財産とするのに大きな支障となる。

一、同窓会会館を設立する。

一、同窓会奨学金制度を定め、その基金とする。

一、新聞「むさし」の縮刷版を作成する。

主なものは以上四件である。その他、どんな意見でも結構ですから、具体的な事業計画を母校内の同窓会事務局まで送って下さるようお願いする。



昨年五月末、中村智教頭先生が急逝されました。中村先生は昭和四十三年に武蔵に赴任され、ちょうど紛争時に教頭という激職にあって、お病気がちの身で、身心を労してその収拾に努力されました。そのお疲れもあったので大変なことだと思います。学校のしょうか、まことに突然の死去で職員としては、同窓会員でもあるの心からのご声援をたまわりますごございました。先生の葬儀に際し井関・今泉両先生が主に会の仕事ましては、同窓会より多額のご香に当っておられますので、今後と料や葬儀へのご参列をたまわり、もご協力いただきますようお願いまことにありがとうございましたいたします。また、校舎の増改築あらためてお礼を申しあげます。

就任にあたって

教頭　中薗　崇

中村先生のあと、私が世田谷区の都立深沢高校より六月に赴任して参りました。深沢は新設校で、同窓会員の数はまだ多くなく、会の運営も比較的楽なようでしたが、やがて失なわれた緑を再びとりもどすべく学校をあげて緑化にとりくみ、それに伴なう校地の緑化、大菩薩峠の施設などに対し、多くのご援助をいただきましたが、今後ともよろしくお願いいたします。特に本年度以降、校舎増改築によって一層の発展を期して努力して参りたいと思います。

よい環境の中で心身ともに健康な生徒の育成に励んで参りたいと思っております。

そして武蔵の歴史と伝統の上に、より

＊　＊　＊

同窓会の今日と明日

同窓会会長　若井　博

先日ある後輩の方から「同窓会って一体何んですか」と尋ねられて、返答に窮した。

会の役員をお受けして、今年で十三年、自分なりには〝同窓会〟というものについて理解をしているようであっても、案外と言葉で表現をするとなると難しいものであることに気がついたものです。

そこで、この紙面をお借りして同窓会の仕組みと活動の現況と問題点それに将来に向けての会の展望などについて問題を整理し、提起をする意味から筆を取ってみました。

▽同窓会の運営

同窓会の運営は、学校長を名誉会長に、通常会員（同窓生）の中から選出された、会長一名、副会長二名、監事一名と各卒業年度の各クラスから選ばれた男女一名ずつの幹事の方と幹事のみなさんの中から互選された理事の方若干名それに学校の先生方から選出された教頭を含む顧問団によって、それぞれ理事会・幹事会を構成して会の運営に関する方針等の検討や事案の審議などを行なっています会の運営に必要な経費は、会員のみなさんが在校中に納入した終身会費をもってこれにあてています

▽同窓会の事業

会の目的が「会員相互の親和向上と母校発展への寄与」という点にあるところから、会員相互の親睦事業が中心的なものとなってまいります。具体的には、毎年五月の第二日曜日に開催する〝同窓会総会〟があげられます。従来は、母校を会場に総会を開いて参りましたが、母校からの自立を建前に昨年度から母校から離れて独自に会場を設定し、会食やアトラクションなどを楽しむと共に、旧交を温めあい、和気あいあいの中に一日を送るといった方法を採用し、本年はその第二年目となります。ぜひ多くの会員のみなさんの参加を期待するところです。

さらに、会員のみなさんの消息を常に正確に把握をし、その情報を提供する目的をもって〝同窓会員名簿〟の編集・発行を実施し、希望される会員のみなさんに実費でお分けする事業。会の動き、会員の動向、先生方の消息、移り変わる母校の姿などを広くお伝えするための会紙〝同窓会むさし〟の発行による会員間のコミュニケイションをはかる活動も実施をしております。

また、ダンスパーティの開催や同窓生サークルに対する援助等も過去に数回実施したこともあります。更に有効な活動を実施しようと常に理事会・幹事会のみなさんと共に真剣に検討をしております。会員のみなさんからの建設的な企画の提案をお待ちしたいと思います。

一方、母校発展に寄与する活動としては、主として母校の記念事業の際に、側面からこれに参加し旧体育館演壇のそで幕など、附帯設備の寄贈といった形で母校に寄与してまいりました。また、可能な限り在校生の生徒会活動を協力する意味から、若干の資金的援助を行なって参りました。

▽問題点と将来の展望

前の項で、会員の消息の正確を期して〝会員名簿〟を作成すると申しましたが、会員数の増大は必ずしもこれを十分に充してくれません。学校側の絶大なる協力と幹事諸氏の努力によって相当以上の効果を上げてはいますものの、年経るごとに増える会員数は、正確な会員間の情報をキャッチする上で大きな問題となって参ります。また、会員数の量的拡大は、会の事務量の拡大にもつながります。今日までは、学校側の理解あるご協力により事務の消化を可能ならしめて来ましたが、将来の会のあり方を考える時、独自にこれら会の事務処理体制を確立する必要性に迫られて来るものと考えます。即ち、会の事務局の設置とこれに必要な人的配置であります。

一方、会の運営についての若干の問題点を指摘してみますと、現在の役員構成のあり方は、非常に理想的な組織形態でありますが、惜しむらくは、実態が伴なわないという点であります。つまり、数百名という幹事数を擁してはいても幹事会は常に十数名で運営されているという現実、しかも、年代的にもほとんどが若い幹事諸君であるといったことを考えると矢張り一つの問題がなげかけられるように思えます。もっとも、会の性格から、役員の皆さんに対して何らの強制力が及ぶものでもありませんし、専ら、役員のみなさんの献身的誠意と無償労力提供に期待する以外に何らの術もないわけです。年数も経ち、社会的・家庭的責任を受け持つようになった役員諸氏の会への足がいつしか遠くなることは一面やむを得ぬ事情があるものと十分理解をすることができますが、一方、母校を一つにし校歌を一つにして社会に巣立ったという精神的連帯感が卒業生の一人一人に存在する限り、年令の如何にかかわらず同窓会という組織の存続はまったく必然的なものとして受けとめなければなりません。その際、会の運営・活動に対して量的拡大は質的変化を生み、特に情報化時代とか流動する時代といわれる今日的要求は、会員のみなさんが夫々に多岐多様な形で持たれていることもまた必然的なものでありましょう。

こうした、要求なり実態に対応するためには、単に画一的な方法にのみ踏襲することなく漸進的な発想に基づく組織の確立といったものが将来的には必要となってでありましょうし、また追求されなければならないものと考えます。この点、十分に研究をしてみたいと思います。

会の事業面についてみても、単に従来からの事業の継続のみに止まることなく、会員のみなさんの要望を極力把握すると共に、厚生的な性格を持った事業の実施――例えば、同窓会海の家・山の家の開設――といった面にまで眼を転じてみるのも将来の会の事業として意義のあることではないかと考えます。

以上数点にわたり、問題点と将来への考え方について私見を述べてみました。

精神的連帯感を通じての同窓会のあり方から一歩前進をして、コミュニケイションの場を通じての連帯感へと向かうのも将来的な同窓会のあるべき姿の一つであろうと考え、会員のみなさんからお預りした会費が真に効果あるものとして活用されることを念頭に置き更に役員のみなさんと企り、将来的同窓会のあり方を思索する決意であります。会員のみなさんのご理解とご協力を切望いたします。

同窓会，総会は再び市ケ谷ヴォーグビルで!!

新会員会費無料
その他は￥500.－

アトラクション
ジミー時田とマウンテンプレイボーイズ

三十才で武蔵に来て

柴平雅弘（都立秋川高校）



三十才で武蔵にきて、人並に夫となり、一女の父親となり、そして厳父、岳父を亡くし、今はおんとし三十六才。おでこがちょいと広いので、見ようによってはおでこが顔全体の½も占めるところから、½というつれしいニックネイムをいただいた時もある。

前頭葉が広いのは秀才の証拠などと人相見にこった同僚にいわれ大いに気分をよくしたこともしばしば。いかんせん凡才中の凡才、さえない授業の汚名をそそごうとひたすら球技大会、体育祭、音楽祭、スキー教室などでハッスルした次第。のんびりムードのボンクラ教師、私めを震撼させた学校紛争、ボンクラはボンクラ、じっとこらえ、右を見、左をみ、今頃になって学校紛争の中に大切な問題提示があるとさとり、感覚的にでなく、多少なりとも論理的に提示された問題にとり組みはじめた自分。

教育とは「すべての生徒にすべてのことを理解してくれるようきかける営み」具体的にいうなら「できない生徒を切り捨てる教育でなく、できない生徒にもわかる教え方をし、可能性の芽の出るのをじっと待つ営み」

評価とは「評価するだけにとどまり、教師の生徒にたいする働きかけと、その働きかけにたいして応えようとする生徒の強い意志がない限り教育にプラスするものでない」というような自覚をもちはじめた自分。

過去七年間、何もしなかった自分。しかし落伍しそうな生徒にたいしては「学ぼう」という人間が生れた時からもっている気持を放棄させないよう気を配った自分。

今おもえば、そうした行為を一つのポーズにしていた面が多分にあった自分。これからの生活の中でその行為をポーズにおわらせるのでなく、定着させるようがんばろうと決意している。

橋浦先生情報コーナー

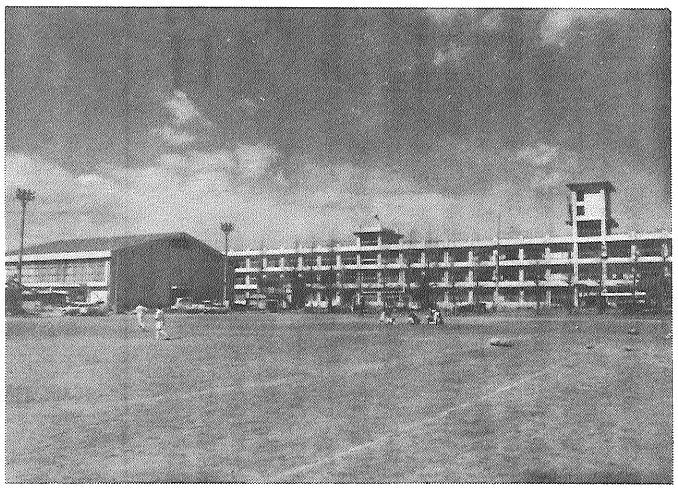
転任された先生方の近況は……

有馬先生が小笠原高校から赴任してこられた四十六年春の同窓会当日には、稀らしく歴代の校長先生がたがそろって会場にみえられた。三代の近藤先生は鷗友学園、五代荒井先生は白梅学園と引続いて育英の道に精進されていられる。二代堺先生、四代嘗多村先生、六代土屋先生と病後のやつれもうかがわれたが、教育の務めに傾倒された程もしられる。このうえとも御健康でいられるよう心から願う。昨年の春には教頭の中村先生が、秋には初代松岡先生が死去された。哀悼の意を捧げる。

七代井上先生は豊多摩高校に転じられた後も、学校行事のたびごとに出席してくださることは、なによりも嬉しい。

水野先生が四月に牛込高校長として、兵頭先生は駒場高校に教頭として栄転された。日ごろの抱負を具現される好機としてめでたい。林良一先生は教育大教授、田部井先生は北多摩高校に移られ、瀬川先生は北多摩高校長として活躍されている。立川高校の原田先生が秋の美術展で上野の山に作品を飾られるのは毎季のことながら山梨先生が立川の画廊で個展をひらかれたのも懐しい。横山先生は日書美展を舞台として、中央書道界でかくしゃくたる存在ぶりを発揮していられる。

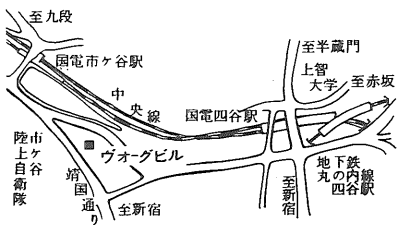
学校は体育館が竣成し、南棟校舎に職員室・図書館も新築移転し校庭南隅には立派なクラブ室もできあがった。やがてシーズン到来とともにプールも新装を誇ることであろう。姿を消した校庭の屋敷森の木立にかわって、ただ今校地の緑化計画を鋭意進捗せしめている。



見事に落成した新校舎体育館

おしらせ　同窓会総会

日時　五月十四日(第二日曜日)午後一時～四時
会場　市ケ谷ヴォーグビル十二階　大ホール
会費　五〇〇円（一部同窓会負担）
　　但し新会員は不要
主旨　新会員歓迎・会員親和
議事　決算・予算報告　承認
　　新役員選出
パーティーです。大いに食べ、飲み歌い、おどりましょう
準備万端整えてお待ちしています。



新任紹介

早川富一先生
都立秋川高校より

高島俊恵先生
新任
都立多摩高校より

広田孝一先生（事務）
都立多摩高校より

学校近況

壁耳より

●忘れ物のチャンピオンOが先生。何号か前のこの欄に弁当箱の置き忘れでお出まし願ったばかりだが、弁当箱とO先生の関係は、今や武蔵で知らぬ者はない。ある昼、国語科の席に弁当を持って現われたO先生。ちょうどあいている席で食事を始めたのだが、それはそれ、身についた習性はいかんともしがたいと見えて、案の定、やがて食べ終って席を立った机の上に、弁当の包みがぽつんと残った。I先生の喜ぶまいことか。職員室を立ち去ろうとするO先生の背に「やっぱり忘れましたね」「いやなに、ほんの十分間、そこに置いとくつもりだった」とO先生胸を張ったが、そのポーズ、いささかさえなかった。

●美術の楽焼の授業でのこと。ねんどをこねて、作品をものにしてと熱中すると、手がよごれるのはもちろん、服の袖までよごれるのは毎回のこと。これは事前に注意しておくのが親切というものと、先生の生徒への注意曰く、「手をよごさないうちに、先にスソをまくっておけ」

生徒の方は正しく聞き違えてちゃんと上衣のソデをまくったというからよくしたものである。

●英語科のY先生。ある日、職員室の黒板をしげしげと眺めながらしきりに首をかしげている。たまたまそばに居合わせた国語科のS先生にたずねて曰く、「EPって何でしょう」

さて聞かれたS先生も、EPと言われたものの、黒板をいくら見つめてもEPという字はない。さて面妖な、とよくよく見て、わかりました。「印をもって事務室へ」と記してあったのでした。

さすがは英語の先生、「印」も先ず「EP」と読むとは立派でした。

（新聞「むさし」より）
協力＝編集部

同期会報告

高校第四回卒業生

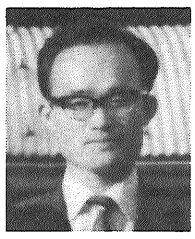
高校第四回卒業生は二十七会という同期会を一年に一回、三月二十七日に武蔵野公会堂の小会議室で開いています。

この学年は学制の交替時期にあたり六年間武蔵に在学し、女学校の最後となったわけで、人材も多く、現在も、家庭に、マスコミに教育にと種々の方面で活躍していらっしゃいます。時には先生方よりも武蔵においては先輩という場合もあり、若い男の先生にとってこわい存在でもあったようです。

今年は公会堂の休館日が二十七日にあたり、一日早く二十六日午前十一時から開かれました。そろそろお子さんの手が離せる年令に達したせいか三十人ぐらい集まり先生方も関塚・山梨・兵頭・赤津内藤・志津・石沢の各先生が参加されました。

一同先生方の若さに驚ろきながら、でもすぐ昔の師弟関係に戻って話をしたり、現在の母親にかえって教育相談をしたりして楽しいひとときを過し、四時半、来年の再会を約して別れました。

御転任御退職の先生方



柴平雅弘先生
①就任　昭和四十年四月
②在籍　七年間
③転任校　都立秋川高校



吉村直子先生
①就任　昭和四十五年四月
②在籍　二年間
③退職



宮本七三郎先生
①就任　昭和四十五年四月
②在籍　二年間
③転任校　都立工芸高校